2015年8月22日　ウパニシャッド

前回マハーバッキャ［Maha-vakya］（偉大な言葉の意）について説明をしました。

1. プラギャーナム　ブラフマ[Prajnanam Brahma]（アイタレーヤ・ウパニシャッド）
2. アハム　ブラフマースミ[Aham Brahma smi]（ヴリハドア－ラニヤカ・ウパニシャッド）
3. タットヮムアスィ[Tattwamasi]（チャーンドーキヤ・ウパニシャッド）
4. アヤマートマ　ブラフマ[Ayamatma Brahma]（マーンドゥーキヤ・ウパニシャッド）

なぜ「偉大な言葉」というのでしょうか？我々は毎日たくさん話をしていますが、真理についてではなく世俗的な話です。世俗的な話の内容は重要ではありません。真理についての言葉はとても大事です。マハーバッキャの中に真理が入っています。真理は永遠・無限です。真理のことを聞いて勉強して理解する。初めは読む、聞く（スラバナ）、それから良く考える（マナナ）。「どうしてこれが真理なのだろうか？これは正しいことなのか？矛盾はないだろうか？」などいろいろな角度から深く考える、それがマナナです。次がニディッディヤーサナ、集中して真理のことだけ考える。ニディッディヤーサナの段階ではもはや疑いや混乱はありません。マナナのときはまだあります。マナナのとき、頭で理解しようとしていますからまだ疑いや混乱があります。ですから先生に話して議論して「これが真理である」と理解します。この過程はみなマナナです。ニディッディヤーサナのときは「これは本当に正しい」と理解しています。ただし理性的な理解であって本当の悟りはまだです。そして真理について集中して考え、瞑想する。そして次の段階はサマディ、悟りです。

マハーバッキャの中に真理が入っています。プラギャーナム・ブラフマは「意識はブラフマンです」という意味です。意識とは何でしょうか？我々はいつも意識という言葉を使っています。意識、無意識、潜在意識、超越意識・・・哲学、ウパニシャッドの勉強の時、意識とは何かを理解しないと先に進めません。基本的な理解として「意識に入らないと意識が何かわからない。理解してまた戻ると意識が何か説明できない」ということがあります。なぜかというと、戻ったときは純粋な意識ではなく意識に他のものを混ぜているからです。心や体と自分を同一視しています。意識に入ると私自身が意識になっているので説明ができません。説明するには感覚、心、知性を使います。意識に入りますとそれらは何も無くなってしまいます。

「ラーマクリシュナの福音」の中に面白くわかりやすい、しかしとても意味の深いたとえが出てきます。「塩人形が海の深さを測りに行ったが、水に入ると溶けてしまった」。戻ることが出来ない、意識に入るとその状態になります。

「意識に入る」とは「意識と一体になる」ということです。特別な人だけが戻ることが出来ます。「ラーマクリシュナの福音」の中にとても美しい話があります。シュリ・ラーマクリシュナが信者に話しました。「私は塩人形として意識の海に入りました。グルの恩寵で私は石に変えられました。水に入っても溶けませんでした。その時船がやってきて私はその船に乗りました」。

戻れるのがアヴァターラです。神の化身、イエス、おしゃか様はそうです。意識に入っても人々を教えるために戻ってきました。自分の利己的な理由は何もないのです。教えるために、神様の恩寵で、神様の願いにより戻りました。自分の願いではできません。

そして意識と物質の違いはなんですか？物質の特徴は一時的、有限、変化する、束縛、無知です。意識は永遠、無限、自由です。これを覚えていると識別できます。それぞれの特徴を覚えていると何が意識で何が意識ではないかわかります。何が無限、何が有限、何が一時的、何が永遠、何が自由、何が束縛された状態かわかります。

意識について2つの言葉があります。

1. シュッダ・チャイタンニャ［Sudda Chaitanya］（純粋な意識）
2. マーヤ・ウパヒタ・チャイタンニャ[Maya-Upahita Chaitanya](マーヤーが混ざった意識)

チャイタンニャ（意識）はいつも純粋です。でもなぜシュッダ・チャイタンニャ（純粋な意識）と言っているのでしょう。我々は経験で純粋ではない意識を知っているからです。認識するものすべてはマーヤーの影響で現れています。認識したものすべて、見るもの聞くもの、食べ物、飲み物、人、動物、建物、すべてはマーヤーの影響で認識しています。マーヤーの影響で我々は自分自身を肉体であると考えています。マーヤーの影響で私の体、私の心があるという考えが出ています。感覚、知性の存在を認識しています。全部マーヤーです。

マーヤーは真理の反対です。マーヤーの特徴は物質の特徴と同じです。マーヤーは一時的です。無知がある間マーヤーはあり、無知がなくなって知識が現れるとマーヤーが消えます。

みなさんは目を開けて私を見ています。周囲を見ています。みなさん目を閉じてください。何も見えなくなります。もし私の声が聞こえないなら、もし私が黙っていたら、今あなたはインド大使館にいるのかうちにいるのかわかりません。さあ目を開けてください。

目を閉じているときすべての宇宙は消えてなくなったようです。目は感覚で認識したもののシンボルです。目を閉じて深く集中して瞑想するとブラフマンがわかります。

手術の前に麻酔すると意識がなくなりますが、マーヤーがなくなったわけではありません。体から意識が離れた状態、体は正常に働いているが意識がそこから離れている状態です。そのとき我々は自分の人格の様々な姿から離れています。認識＝マーヤーのようなものです。認識がないときマーヤーもないと思っていますが、本当は無意識の状態でもマーヤーは続いています。

我々の意識はいつも混ざった意識です。例えば食べているときは肉体意識、見る、においをかぐときは感覚、「おいしい」という思いが現われると心、「もうおなかいっぱい、これ以上食べるとおなかを壊こわす」と考えれば知性、「これは～です」と人とものについての情報をインプットするときは記憶が混ざっています。「疲れた」と感じているとき私は肉体です。音楽を聞いているとき私は感覚です。「あなたの名前を覚えていない」という私は記憶。「今苦しんでいる」とき私は心。別々に存在するものを混ぜています。その時いろいろな人格の姿を自己と同一しています。それはマーヤ・ウパヒタ・チャイタンニャです。

体と心はマーヤーの大きな姿です。スワミ・ヴィヴェーカーナンダはマーヤーとは何かと聞かれたとき、とても短く答えました。「マーヤーは心です。心があれば宇宙はあります。心が消えると全ての知識が消えます」。

あなたはここに座っています。突然仕事のことやうちのことを思い出します。そのときあなたはここに座っていますが本当はここにいません。体はいるが心がいない、あるいは体はいないが心はいることもあります。もし心から体を切り離すことが出来るとそのとき宇宙の知識は全部なくなります。この場合は全体的な心のことです。その中に記憶、知性、私意識、自我も入っています。もしその心を切り離したら、宇宙も切り離されます。宇宙の知識もなくなります。それはウンマニ・サマディ[Unmani Samadhi]です。突然悟るが一時的で安定しないサマディです。理想的ではありませんがもちろんとてもいいことです。

すべてのものをマーヤーから切り離します。引き戻します。引き戻して中のアートマンにだけ集中します。安定すれば本当のサマディが来ます。我々はいつもマーヤ・ウパヒタ・チャイタンニャです。すべての人格の姿から切り離してアートマンにだけフォーカスするときシュッダ・チャイタンニャです。それがどういうものかそのときにわかります。

科学では物質から意識が生まれたと考えます。脳から意識と心が生まれたと考えられてきました。しかし最先端の研究では体、心、脳、意識が別々の存在であるという考えが出てきています。しかし本当にそれらはみな別々に存在するのでしょうか？例えば脳と心と意識は異なる存在ですか？哲学の考えで別々に見えますが本当は意識だけが存在しています。意識が物質になっています。ブラフマンが宇宙になりました。ブラフマンと宇宙は同じものです。同じ存在が違う形で現れています。金で作った装飾品は形が変われば異なる名前で呼ばれますが、みな金でできていることに変わりありません。

次はアハム・ブラフマースミについてですが、この言葉を分けるとアハム・ブラフマン・アスミ、「私はブラフマンです」ということです。次のタットヮムアスィは分けるとタット・トヮム・アスィは「あなたはブラフマンです」。ウッダーラカは息子シェートキトに教えました。「あなたはブラフマンです」。

アヤマートマ・ブラフマは「これはそれです」（このアートマンはブラフマンです）。

言葉の「私」は通常我々が自分について持つイメージとは違います。普段使っている「私」という言葉のイメージは体、心、知性、合わせたものです。その私はブラフマンですか？私の体、感覚、生命エネルギー、心、知性、記憶、自我はブラフマンですか？

識別しないとそのことがわかりません。ブラフマンの特徴は何か？一つは無限。私の体は無限ですか？私の体はブラフマンではない。その感じで理解してください。感覚はブラフマンですか？ブラフマンの基準は何ですか？永遠、無限。感覚は永遠ですか？違います、そして感覚はブラフマンではない。そういう感じで理解してください。生命エネルギーはブラフマンですか？とうしてブラフマンではないのですか？なぜなら生命エネルギーは有限で一時的だからです。ネーティ、ネーティ、「それはブラフマンでない」「これはアートマンではない」と。４つのマハーバッキャについて同じように、人格の一つ一つの姿を取り上げて、この感じで識別していくと、これはブラフマンではないと理解できます。ブラフマンの特徴を基準として判断します。判断して理解します。

識別をしないと純粋な意識は理解できません。話を聞いても個人で深く集中して考え瞑想しないとわかりません。結論として体、心、感覚などはブラフマンではないということがわかります。なぜならブラフマンの特徴は永遠、無限、自由、絶対、至福であって、我々の人格の姿は違いますから。

この識別を続けていくと我々の存在の中に一つのものが残ります。アートマンです。アートマンについて今、識別してください。あなたの中の何がアートマンですか？アートマンの性質はなんですか？体がなくなってもアートマンはなくならない。体を燃やしてもアートマンを燃やすことは出来ない。アートマンは生まれない、育たない、衰えない、なくならない。ブラフマンも同じです。ですからアートマンはブラフマンです。それから我々の心も体も全部空間で限定されたものですが、アートマンは空間で限定されていない。偏在です。みなさんの中に同じアートマンがあります。同じアートマンがすべての中にあります。ブラフマンは自由、束縛が無い。体には束縛があります。おなかすいていたら絶対食べなくてはならないし、喉が乾いたら水を飲まなくてはいけない。とても疲れていたら眠らないといけない。寒いときはヒーターを使わないといけない。暑いときはエアコン使わないといけない。みな体の束縛です。同じように感覚の束縛、心の束縛があります。例えば心の束縛は何でしょうか？執着です。執着すると自分も相手も自由がなくなります。妻と夫の関係がそうです。独身の人にも執着はあります。独身者はみな自由というわけではありません。ある人は小さなことに執着します。偉大なものに執着しません。アートマンには執着はありません。心に束縛があってもアートマンが影響を受けることはありません。

体が熱くても冷たくてもアートマンは影響を受けません。心と体に束縛があってもアートマンには束縛はありません。ブラフマンも自由、束縛がないです。そしてアートマンはブラフマンです。その意味でマハーバッキャを理解してください。

あるとき悪魔と神が創造の神ブラフマーのもとに来て「ブラフマンのことを教えてください」と言いました。二人は「ブラフマンを悟ると不死になる」と聞いていました。神も悪魔も不死を得たいと思っていました。ブラフマーの教えは「あなたはブラフマンです」という言葉でした。

悪魔はそれを聞いて「肉体がブラフマンです」と理解して喜んで帰りました。悪魔の特徴は体の面倒をいっぱい見ることです。考え方の特徴はいつも体、心が中心です。心は純粋ではないので、世俗的な理解になります。

しかし神の心は純粋で清らかです。教えを聞いて神も始めは悪魔と同じように理解しました。しかし後で識別しました。「もし体がブラフマンだったら、ブラフマンは永遠のはずだ。しかし体は永遠ではない」そう考えてまた戻り「ブラフマンについて教えてください」と言いました。ブラフマーの答えは「あなたはブラフマンです」でした。

そして神は考えました。「心がブラフマンです」。なぜなら心は体より精妙だからです。しかしまた識別しました。「ブラフマンはいつも同じである。ブラフマンはいつも至福である。しかし心はいつも至福ではない。苦しみもある。心はブラフマンではない」と考えてまた戻りました。

そのようにして「アートマンはブラフマンである」と理解しました。なぜすべての生き物の中で神が一番上なのですか？ブラフマンを理解ができたからです。そして神は不死になりました。我々のなかに悪魔が住んでいます。体の面倒をたくさん見ています。体が生活の中心のようです。賢い人はそうではない。賢い人は識別して意識を自分の魂に向けます。神に向けます。

これからウパニシャッドの別の説を引用してブラフマンは何かを説明します。

カタ・ウパニシャッドの中にふたつの言葉が出てきます。

ニッティヨーニッティヤーナーム　チェータナスチェータナーナム　エーコー　ヴァフナーム[Nityonityanam cetanascetananam eko vahunam]

分けると「ニッティア・アニッティアーナーム」合わせて「ニッティヨーニッティヤーナーム」、「チェータナハ・チェータナーナーム」合わせて「チェータナスチェータナーナーム」そして「エーコーヴァフナーム」です。

説明します。

1. ニッティヨーニッティヤーナーム

ブラフマンとは何ですか？ニッティヤ・アニッティヤーナーム、「すべての一時的なもののなかにそれだけが永遠です」。アニッティヤは一時的です。ニッティヤ（永遠）に否定のアがついて永遠ではない、という意味です。すべてのものがアニッティヤ、一時的です。その中でブラフマンだけがニッティヤです。どうしてみな一時的ですか？なぜならすべてのもの、すべての生き物は空間で限定されたものだからです。始まりがあり終わりもあります。衰えて、なくなります。ある時存在し、あるとき存在しません。時間で限定されたものはすべてアニッティヤです。すべての生き物はそうです。動物、建物、宇宙のすべてがそうです。永遠に見えますが永遠ではありません。人間は永遠ではないとすぐわかりますがたとえば海のようなものは永遠に見えます。でも永遠ではないです。エベレストもそうです。昔はなかった。地殻変動でそれは現れました。そしてだんだんと消えていきます。太陽も永遠ではない。ただ時間が長いだけです。長期的に考えると全ては一時的であると考えることが出来ます。100年1000年ではわからないこともあります。

1. チェータナスチェータナーナム

「ブラフマンはすべてのものに意識を与えています」という意味です。物質は意識を借りて生き物になっています。本当は物質です。物質にブラフマンが意識を与えているので、肉体は物質ですが生き物になりました。もしアートマンがこの体から離れるとこの体は歩けません。何も働きません。

心も物質です。意識があるしるしは意志があるということです。そしてその意志を満足させようとします。蟻を考えてください。蟻にも意志があります。「私は食べたい」と考え食べたいから餌を探しに行きます。餌を探して歩いているうちに雨が降る可能性あります。雨が降る前蟻の群れが自分の口に卵をもって移動しているのを見ることがあります。「雨が降りそうだ」という感覚があり、また「自分の卵を守りたい」という意思があります。

1. エーコーヴァフナーム

「ブラフマンはひとつですがそのブラフマンがすべてのもの、すべての生き物になりました」という意味です。ウパニシャッドの中に出てきますが、「エーコー　ヴァフッシャーム　プリジャイェーヤ　イティ」[Eko vahusyam prajayeya iti]、ブラフマンが「私はみなになろう」と考えて、すべてのものになりました。ブラフマンの意志だけで宇宙は生まれました。普通は考えるだけでものを実現することはできません。食べ物が欲しい、お金が欲しいと思ってもそれはすぐ出てこない。考えるだけでは手に入らない。そのためにいろいろやらなければならはい。ブラフマンはそうではない。ブラフマンは願うだけで全てできます。

ブラフマンはいつも満たされているのになぜブラフマンの中に願いが生まれたのでしょう？普通願いは不完全さがあるところに生まれます。ブラフマンに欠けているものは無いはずです。その疑問の答えの一つは「ブラフマンは遊びたかったから」というものです。リーラーです。遊びは一人ではできません。だから自分がみなになりました。我々は一人では楽しめないから人は結婚します。子供をつくります。我々すべての中にブラフマンの意志が入っています。ですからみな同じ考えを持つのです。「一人では面白くない」「楽しめない」「オーケー、結婚しましょう」もちろん後で困ることもありますが、結婚の前は楽しみだけを想像しています。

リーラー、ブラフマンの遊びについては、哲学で説明することは難しいです。バクティ・ヨガの考えです。どうしてブラフマンはそのことを考えたのか？我々は人間ですから無限の考えが何か説明はできません。我々は有限ですから無限の中にどんな考えがあるのか理解できません。「たぶんブラフマンは遊びたかったのだろう」と想像するだけです。本当の原因についてはわからないのです。

ブラフマンは自分自身から宇宙を放出しました。蜘蛛が巣をつくる時材料を自分の体から出すように。ウパニシャッドの中の有名なたとえです。ブラフマンがどのように宇宙を作っているか、とても大事なポイントです。鳥は違います。材料を他から集めて作ります。宇宙とその中身とブラフマンは別々の存在である、そのような理解は二元論哲学、サーンキヤです。ヴェーダーンタ、非二元論者はそれを認めていません。

それは「創造」ではなく「あらわれ」です。創造というと以前は存在しなかったものを作るイメージです。そして作る人とその材料は異なる存在です。たとえば大工さんは木材で建物作りますが大工さんは木材ではない。創造者と創造されるものは異なる存在です。「神は創造しています」というときはそのイメージがあります。

ヴェーダーンタの考えは違います。ヴェーダーンタの言葉は「あらわれ」です。これは完璧な言葉です。ヴェーダーンタでは宇宙はブラフマンから現れたと言います。また「破壊」というとすべて壊されてなくなってしまうイメージがありますが、ヴェーダーンタの考えはそうではなく「前の状態に戻る」ということです。なくならないで元の状態に戻ります。現れる、戻る、現れる、戻る、そのサイクルがヴェーダーンタの考えです。一つが多になります。多から一つに戻ります。それだけです。From one to many, many to one, return journey.　精妙から粗大、粗大から精妙へと状態が変わります。宇宙の現れは精妙から粗大です。粗大の状態からまた精妙に戻るのが「破壊」です。

ムンダカ・ウパニシャッド（P87 5~7行目）

ヤッタッド　アドリッシャム　アグラーヒヤム　アゴーットラヴァルナム　アチャクシュフ　シュロートラム　タット　アパーニパーダム／ニッティヤム　ヴィブム　サルヴァガタム　ススークシュマム　タット　アヴィヤヤム　ヤット　アドブタヨーニム　パリパッシャンティ　ディーラハ[yattad adrsyam agrahyam agotravarnam acaksuh srotram tat apanipadam nityam vibhum sarvagatam susuksmam tat avyayam yat adbhutayonim paripasyanti dhirah]

最初に言葉の説明だけします。

ヤッタッド（あるものは）アドリッシャム（見ることができない）

アグターヒヤム（つかむことができない、支配することができない）

アゴートラヴァルナム（源がない　原因もなく性質もない）

アチャクシュフ　シュロートラム（目もなく耳もない）

アパーニパーダム（手もなく足もない）

ニッティヤム（永遠）ヴィブム（偏在）

サルヴァガタム（すべてのなかに偏在している）

ススークシュマム（精妙よりも精妙）アヴィヤヤム（衰えない）

ディーラハ（賢い人はその存在を）パリパッシャンティ（悟っている）

ブラフマンについてです。ブラフマンは見ることができない、つかむこともできない、ブラフマンの源はなく原因もない。ブラフマンには認識の器官もなく、行動の器官もない、ブラフマンは永遠。最初はブラフマンについて「それではない、それではない」と言っています。そのあとブラフマンは永遠、ブラフマンは偏在、それはすべてに入っていて、精妙よりも精妙、それは永遠、それは賢者だけが理解していると続きます。我々の経験はいつも一時的で永遠の経験はありません。有限についての経験はありますが無限のことは知りません。聞いても全然理解できない。それを理解する賢い人とは学者ではありません。悟った人だけがブラフマンを理解しています。

（質疑応答）

（質問１）「ブラフマンは偏在、アートマンは偏在ということを聞きました。そうなると山とか海とか建物にも意識があるということだと思うのですが、理論としてはわかるのですが一般的な感覚として理解できません」

―――パリパッシャンティ　ディーラハ、理解のためには実践が必要です。必要な実践は二つだけです。一つは心を清らかにすること、もう一つは集中して真理のことを考えることです。ものがあるけど見えない、これがわれわれの問題です。

科学者はすべての物質の中にエネルギーの動きがあると言います。すべての原子は常に動いています。それを見るためには特別な道具とトレーニングが必要です。道具があっても使い方を知らないと見ることができません。道具はヨガです。カルマ・ヨガ、ギャーナ・ヨガ、バクティ・ヨガ、ラージャ・ヨガ、ヨガという道具を使ってトレーニングすると見えます。問題は実践のやる気がないことです。

原子の中にエネルギーが存在する。その理解があって科学者は原子爆弾を作りました。原子は物質ですが本当は意識です。同じようにすべての中にブラフマンが存在しています。

（質問２）「ブラフマンは人間の中に宿っているときだけアートマンというのですか？それとも他の生き物にもすべてアートマンが宿っているのですか？」

―――そうです。人間にも動物にもアートマンはあります。現れが違います。ヒンズー教はその考えです。キリスト教は違います。動物の中に魂はなく、人間だけが地獄と天国に行きます。最後の審判で神様が決めます。動物が後に人間の姿で生まれる、ということも信じていません。ヒンズー教は再生を信じているのでその可能性を認めます。おしゃか様のジャータカ物語も再生の話です。

（質問３）「ブラフマンとアートマンは同じ性質なのになぜ名前が違うのですか？」

―――レベルが違います。アートマンはミクロレベル、ブラフマンはマクロレベルです。材質が金の装飾品は形が違うと名前も変わります。同じ金でも、ノーズリング、イヤリングなど。アートマンとブラフマンはそのように区別しないとわかりません。レベルが違いますから両方理解しないと、両者の関係について理解しないといけません。

「個人の中にいるときはアートマンですか？」

―――そうです。我々はそう考えないと混乱します。我々は宇宙を作っていません。誰が宇宙を作っていますか？その疑問が生まれます。宇宙を作った存在と私はどんな関係がありますか？他人と私は何の関係がありますか？その疑問のために、本当は同じ存在なのですが、レベルが違うので名前も別々になります。本性は両方ともサット・チット・アーナンダです。ブラフマンもサチダーナンダ、アートマンもサチダーナンダ、それは変わりません。

たとえば池の水と海の水は同じH2Oですがどうして名前が違うのですか？あなたの質問も同じことです。「どうしてそれを池と呼ぶのですか？どうしてそれを海と呼ぶのですか？」なぜなら池のイメージは小さい。海というとたくさんの水のイメージがあります。アートマンは池、ブラフマンは海のようです。しかし同じ水。アートマンとブラフマンは両方とも純粋な意識です。

（質問４）「アートマンについて質問です。インドの聖者の本に「瞑想で心臓にやどるアートマンを光り輝く光として見ることができる」とありました。そのアートマンの光を遮るものがヨガでいうパンチャコーシャなのでしょうか？アートマンそれ自体は純粋な意識であって、人間側も本当にきれいな意識であればその光を自分で見ることができるのでしょうか？」

―――もちろん見ることが出来ます。見えないというのは我々の心が純粋でないからです。

「それはどのような修行をしたらいいでしょうか？」

―――ヨガの実践と真理を集中して考えることです。実践しないとだめです。棚から牡丹餅はありません。実践して結果は神様にお任せするとできます。

（質問５）「さきほど他の方が質問していましたが、「アートマンとブラフマンは同じものなのになぜ言葉として分けるのか」ということはずっと気になっていました。今私が理解した範囲内で申しますと、ブラフマンとアートマンは同じものだけれど、個人の中にあるアートマンとはブラフマン＋何かがついてしまっている状態なので、それをブラフマンと呼ぶとくるってきてしまうので、だから便宜上、みんなで話ができるようにそれをアートマンとして区別して呼んでいるのでしょうか？」

―――そのように考えない方がいいです。さっき言ったようにブラフマンのレベルと我々のレベルは違いますから。池の水と海の水は両方水ですが、どのように区別しますか？池というと小さいイメージ、海はとても大きい。両方存在しています。ですがもし我々が水はどのように存在しているか話したいなら、その時あなたはこう言うのではありませんか？「池もあります。海もあります。」その言葉を使わないでどのように説明ができるでしょうか？池という言葉だけを使って水を説明できるでしょうか？

「本質的には両方とも水で同じものですよね？」

―――さきほど言いましたが水はH2Oで同じものです。

「それは大きさの問題ですか？」

―――大きさだけでなく永遠、無限、自由です。今は説明のために簡単な例を使いました。

「アートマンとブラフマンは性質は同じなのにあえて分けるということは、大きさでわけているのかなと」

―――大きさだけでなく、偉大なレベル、小さなレベル、有限、無限いろいろあります。理解のためにレベルのことだけ考えてください。マクロとミクロ、それだけイメージしてください。話だけ聞いても理解はできないです。ウパニシャッドを勉強しながら、私が話したことを時々考えてください。そうしないと議論だけになってしまいます。ウパニシャッドの勉強のやり方は先生から聞いて、自分で考えます。それをしないと本当は質問はできないのです。

「アートマンをもし悟ったならばブラフマンも悟れるのですか？」

―――ブラフマンも悟ります。なぜならもしあなたが池の水を飲んだら、海の水を飲むのと同じ結果です。H2Oには変わりありません。たとえでは全てを説明できません。少しだけ理解できます。本当は１００％を説明できる例は存在しません。イメージのためにH2Oの例を使いました。今度は自分で考えてください。そうしないと言葉を聞いてもわかりません。考えてください。それが大事です。ウパニシャッドの正しい勉強は、勉強は少しで考えることをたくさんします。我々のやり方は逆です。勉強ばかりして自分で考えません。正しいやり方ではありません。それでは1000回聞いてもわかりません。

そのために個人的に集中して瞑想してください。先生が代りにはできません。自分で識別しないといけない。科学の勉強と哲学の勉強はそれが違います。哲学の勉強のとき識別は絶対に必要です。言葉だけで先生は説明できません、不可能です。